

「授業と生徒会を活かした仲間づくり」

―ジャスミン運動を中心として―

高槻市立第七中学校

1. はじめに

本校は、高槻市の最南部に位置し、茨木市と摂津市及び淀川を挟み寝屋川市と隣接している。校区は南北に広く、田園が広がる中、2か所の大規模な府営住宅を含む新興住宅地と旧村地域が混在しており、幹線道路にそって、工場や物流倉庫が林立している。

生徒の家庭状況としては、旧村地域の裕福な家庭が一部ある一方で、府営住宅在住の低所得者層を中心に、両親の揃っていない家庭も多く、生活援助・就学援助を受けている率は全家庭数の40%弱の割合を占めている。また、中国やペルーなど外国籍の生徒が在籍しており、国際色豊かな地域でもある。保護者は概ね協力的ではあるが、家庭や地域の教育力は低く、学校への依存は高い。

過去より本校は長年にわたって、生徒指導上困難校と位置づけられてきた歴史がある。また、その折々の中で、重大な人権侵害事象も生起しており、市内でも有数の課題校に挙げられてきた。現在、生活面では非常に落ち着いた状況にあり、学力充実の取り組みを最重要課題として推進すると共に、不登校・特別支援教育・日本語指導等、課題を有する生徒に対しての学習支援や家庭支援、国際理解教育にも力を注いできている。

生徒数の減少に伴い、今年度の学校規模は、普通学級10クラス・特別支援学級3クラス、全校生徒数345名の比較的規模の小さな学校になってきている。

2. 過去からの脱皮

筆者は4年前に校長として本校に赴任したが、生徒には次のような特徴が見られた。

- ・自分に自信が持てない生徒が多い。(自尊感情が低い。)
- ・支持されたことはできるが、主体的に動ける生徒は少ない。
- ・コミュニケーション力が弱く、力関係・暴力で解決しようとする傾向がある。
- ・基本的生活習慣が確立できていない生徒が多く、家庭学習が定着していない。
- ・生活体験等が乏しい。
- ・不登校生徒が多い。

過去の経緯から二度と「荒れ」のない「人権感覚豊かな」学校づくりを目指すために「授業の充実」と「信頼の充実」を改革の両輪と位置づけ、「学力の向上」「積極的な生徒指導の展開」「生徒会活動の活性化」をその具体として推進してきた。

また、従前からある学校教育目標を補完する意味で、目指す学校像(笑顔に会える学校、時代の変化に対応した学校、地域に信頼される学校)を掲げ、翌年には目指す子ども像も設定した。

「目指す学校像」を具現化するために、市の研究委嘱等を取り入れ、それらとリンクする形で「七中改革構想」を策定した。改革のキーワードである「授業の充実」と「信頼関係の充実」を両輪として授業改革と生徒会づくりを重点施策として過去からの脱皮を図った。

次章では、授業改革と生徒会づくりを通して一定の成果が見られた「一人ひとりを大切にする仲間づくり」について紹介をしたい。

3. 一人一人を大切に作る仲間づくりのために

①授業改革を通して

授業づくりについては、教科の特異性があり、なかなか議論が難しいところがある。

そこで、授業作りの研究を進めるに当たって、次のポイントについて共通理解した。

■教師の熱意

まずは教員が一生懸命に授業する。授業研究することで生徒に「熱意・一生懸命さ」を伝えよう。「それ」が伝われば、生徒もきつと頑張る！

■生徒との信頼関係

生徒とのコミュニケーションを大切にする。一人ひとりの生徒をしっかり見て、生徒の変化に気付く。ちょっとした生徒の変化に気付けるよう教員の感性を磨く。

■授業規律

ONとOFFのけじめをつけさせる。授業を受けるスキルを身に着けさせる（聞く力をつける）。自主性を育てる。

■きめ細かな指導と評価

生徒一人ひとりの理解の状態を把握、評価し、適切なアドバイスをする。（指導に活かす評価）生徒の自尊感情や達成感を高めるような声かけ、評価をする。

■授業の目標やめあて

授業計画をしっかりと立て、生徒に授業の目標やめあて、予定を明確に提示し、生徒に見通しを持たせる。授業で目標が達成できたかどうかわかるようにする。（自己評価）

■ 授業の構成

「わかる授業」のために教材研究をしつかりと行う。生徒の活動を取り入れ、メリハリとテンポよい授業を行う。生徒にマッチした教材・進め方を行う。

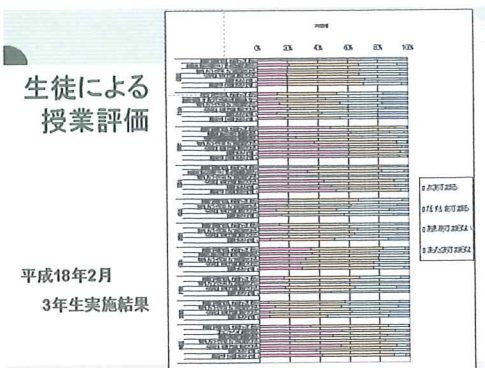
■ 生徒のやる気

視覚に訴えるもの、社会との関連性のあるものを用意する。将来に目を向けさせる。

■ 考える力・生きる力

考えさせるような教材・時間をとる。

というようにまとめ、共通理解を図りながら授業改革に取り組んだ。



また、毎月の研究授業に加え、年に2回、生徒による授業評価を実施し、教科で分析し改善策を講じている。上の図は、結果の一例を示している。各項目を4段階で評価させ、左側が良い評価であり、右側へ行くほど、厳しい評価という構成になっている。上位2段階を合わせたものが、生徒が概ね満足していると考えている。

②生徒会づくりを通して（ジャスミン運動を中心として）

本校の教育改革の柱の一つに、「信頼関係の充実」を掲げている。昨年、いじめが大きな社会問題となり、各校でさまざまな取り組みが行われた。いじめ問題だけではなく、全ての子どもが安全で安心して生活できる学校をつくるために、積極的な生徒指導の展開と自主性・主体性を育むために、次の3点を基本に生徒会活動の活性化を推進してきた。

ア、生徒の自主性を高め、達成感を持たせる取り組みを行なう。

イ、点検活動から創造的な活動への転換。

ウ、月1回の全校集会を実施し、委員会活動を発表する機会・場所を保障する。

七中ジャスミン運動

J ... 授業時間を大切にしよう！
A ... 挨拶をしよう！
S ... 掃除をしよう！
MI ... 身だしなみを整えよう！
N ... ノーチャイムに取り組もう！

JASMINキャンペーン
・ポスター作り
・全校集会での呼びかけ
・登校時の挨拶運動の実施
・週1回、放送で時報を流し一斉に時計あわせを行なう。
・校内清掃重点箇所を撮影し全校集会で知らせる。

生徒会活動の中心にジャスミン運動を設定し、市内でも「七中といえばJASMIN運動」と形容される程定着している。

生徒会の活性化を模索していた2年前、生徒の発案でスタートした運動であるが、併行して校内で論議されていた授業の充実と、ノーチャイムの実施を教師側の押し付けでなく、生徒

側の主体性として合体することにより、生徒のやる気を全面に押し出せたと考えている。

授業・挨拶・掃除・身だしなみ・ノーチャイムのそれぞれの頭文字を組み合わせ、耳障りの良い表現となったことで、生徒間への浸透もスムーズに行われたことは、達成感の容易さと相まって自信と自主性の向上に非常に効果的であった。



挨拶運動は、朝の校門だけではなく、校舎内でも「おはようございます」「こんにちは」が言えるようになってきている。教員も毎日門に立つことで、生徒の人間関係や個々の変化を把握するヒントとしている。

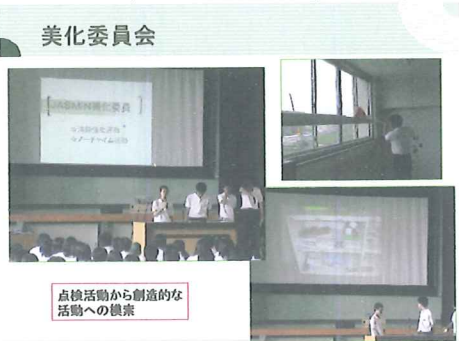
ノーチャイムについては、校内の時計を増設するなど、生徒の要求活動に対応しながら条件整備と周知期間を設定した後、一年半より実施している。テスト時以外はノーチャイムで、生徒会執行部や放送部が行う朝のスタート時、昼食時、下校時の放送以外、時報を知らせることはなく、自ら時計を見て行動している。お互いが注意を払い、しっかりと取り組んでいる。最近ではかえってチャイムが鳴ることのほうに違和感があり、また、教職員も生徒と同じ立場で授業時間の確保に努力している。



委員会活動も、これまでは点検活動が中心であったが、調べ学習の結果を全校集会で報告したり、より良い学校生活を過ごすための提案をしたりと、その活動の内容にも変化が見られてきている。

アイデアが生まれ同時に責任感や活動

意欲の向上が顕著である。



生徒会執行部を中心に企画・運営をする全校集会は毎月行われている。

生徒が発言する機会が多く、生徒の声で思いを伝え、パワーポイントを使うなど工夫しており、その発信を多くの生徒達が受け止め、共に学校生活を高めようという校風ができあがってきている。

4. いじめ撲滅宣言の発令

生徒会が提唱する活動に三大運動がある。一つは既に述べた

いじめ撲滅に向けて

★生徒会の活動

- ★ いじめ撲滅宣言
- ★ JASMINボックス
- ★ いじめストップシール
- ★ いじめ撲滅ポスター作成

★教師の取り組み

- ★ なかまアンケートの実施
- ★ 生徒集団の中で起こった事案は、
生徒集団の中で解決を！
- ★ 生徒懸念等個に応じた丁寧な指導
- ★ 家庭訪問による家庭支援の充実

執行部はPTA役員との交流の

ジャスミン運動であり、他はいじめ撲滅運動と無遅刻更新運動である。いじめ撲滅に向けての取り組みは、図のように生徒会の活動に併せて、教師側も居心地アンケート等の取り組みを行い、未然防止と早期発見に努めてきた。

これらの活動を通して、生徒会

機会を持っている。生徒からは、学校での生徒の様子や「JA

S MIN 運動」について説明をし、PTA役員からは、挨拶

運動への協力やジャスミン苗のプレゼント等、側面支援をもらっている。現在、継続的な支援としてPTA活動の一環として

PTAと執行部の交流会



最初には生徒会活動が保護者の方にも認め
ていただき、生徒の大きな励みになりました。

平成18年 6月28日(水)
PM5:00～
七中応接室にて
初めてのPTAとの交流会



月1回の全校集会



生徒も自分の言葉で話を
することに少しずつ慣れ
てきました。



ジャスミン基金が創設され、生徒の活動の資金援助も得られている。ちなみに、昨年度秋に植えた100株以上のジャスミンは、白い花とジャスミンの香りを漂わせている。近い将来、七中はジャスミンの花でいっぱいになると思われる。

5. 取組の成果と課題

取組みの成果①

学校改革・教師の意識改革

- ・教師の主体的な学校づくり
- ・生徒や保護者の目線に立った学校づくり
- ・いいと思われることはどんどん取り入れる
- ・短いサイクルのPDCA

これまでの学校改革の成果としては、まず、教員の意識が大きく変わったこと。特に、「取り入れる」ということに対しての抵抗感が、小さくなってきている。

さらに、生徒の自主的な活動が、生徒に達成感と自信を与えた。

学校環境の向上で学びの期待感が高まり、問題行動が激減した。

きびしい地域環境ではあるが不登校も大幅に減少している。

取組みの成果②

- 生徒会活動の活性化、ノーチャイムへの取り組みなど様々な活動

- ◆ 生徒の自尊感情、達成感の高まり
『いい学校にしたい!』
- ◆ 生徒・教師の意識の変化
『やればできる!』
『授業時間を大切にしよう!』

結果として、今、非常に落ち着いた学校になってきたといえる。

これが、最も大きな成果であり、これまで、荒れに苦しんでいた

学校が、マスコミにも取り上げてもらえる取り組みができる学校になったという、大きな自信になっている。

また、本校のこれからの課題としては、

① 取り組みが肥大化しないように、教育内容・活動を検証し、精選していくと共に、生徒の自主性を高めるものに転換し

取組みの成果③

落ち着いた学校に

- ◆ 問題事象の減少
- ◆ 不登校生徒の激減
- ◆ 生徒と教職員の信頼関係の構築

今後の課題 その1

- ビルド&スクラップ
学校教育内容の精選
生徒の自主性を高める取り組みへの転換
- 更なる外部力の活用と開かれた学校づくり
- 取り組みに対する客観的評価の導入

② 学校外部の資源を更に積極的に取り入れていくこと。

② 取り組みに対しての評価とアドバイスを、客観的に継続的に受けるシステムを導入すること。

④ さらなる授業改革を進めること。

⑤ 家庭学習の支援を進めること。

⑥ 人的な不足については、かなり厳しい状況であり、さらなる校内での工夫と外部の人材の積極的な登用を進めること。

などが挙げられる

「目指す学校像・子ども像」の具現化の為に、これらの課題克服に向け、継続的な支援を行っていく決意である。

校長 前田 勉

今後の課題 その2

- 授業研究、スキルアップ、IT授業方法・分割授業方法等の研究
- 家庭学習への取り組み
- 人的不足
 - ・総合的な学習の維持
 - ・生徒のニーズにあった選択授業の開設
 - ・不登校生徒支援、特別支援教育、外国人教育等の充実